

アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）2014 年度教育研究報告書

| | |
|----------------------------|---|
| 事業課題名 | 北京大學学生のための「京都サマースクール」 |
| 代表者名 | 韓 立友 |
| 事業概要 (600 字程度) | <p>北京大學の学生を対象とした「京都サマースクール」は、東アジアのトップレベルの学生が、本学の学風および先端研究に触れ、日本の政治・国際関係、経済・経営、文化・伝統、歴史、社会、環境・農業問題などを理解するとともに、日本人学生との交流の機会を得て、将来的に本学への長期留学志望者を増加させる事を目的として実施された短期留学プログラムである。京都大学の「東アジア圏学生交流推進プログラム」および「世界展開力事業」と、京都府の「京都留学生おこしやす事業」が連携し、今回は大学間学生交流協定校である北京大學により 14 名の学生が選抜され、8月 17 日から 26 日まで国際交流推進機構の短期交流学生として受け入れられた。参加者は、北京大學全学の多様な専門から選抜された優秀な学部学生・修士課程学生 14 名である。プログラムの前半、学生たちは本学教員による講義（食糧・環境・生命、経営、文化・歴史）の受講、理学研究科における先端研究紹介、研究室見学、また、学生バディとして参加した約 20 名の日本人学生との交流を行い、後半では京都府庁の協力の下、府内各地域の視察や見学、また日本伝統文化、日本の現代農業の体験や見学を行った。最終日は、国際交流センター教員参加のもと、学生全員で今回の留学の成果をまとめた発表を行い、10 日間の全日程が終了した。</p> |
| 成果の概要 (800 字程度) | <p>北京大學の学生は、短期の「京都サマースクール」を通じて、日本の政治・国際関係、経済・経営、文化・伝統、歴史、社会、環境・農業問題などに積極的に取り組み・調査し、理解を深めたとした。実際に、日本或いは京都への長期留学を志す学生もたくさん出てきている。また、同世代の日中大学生同士はその後も積極的に連絡を取り合い、互いにきずなを深めながら、交流を続けており、今後、日中交流の架け橋になることが期待できる。特に、まだ海外への渡航経験がない日本人学生に対しては、国際化教育の一環にもなっている。</p> <p>プログラム修了後、アンケートや統計等から以下のような効果が確認できた。(1) 来日留学生の日本に対する認識と理解の促進、(2) 日本の大学及び京都大学の認知度の向上、(3) 日本留学、京都大学留学に対する関心の深まりと日本留学実現者の増加が挙げられる。(1)については、プログラム実施後のアンケートに、肯定的なコメントが多数見られる。京都大学による講義、文化体験活動、日本人の学生との交流を通じて、「日本に対する認識と理解が全面的に増した」といった内容である。(2)の日本の大学及び京都大学の認知度の向上に対しても顕著な効果を挙げている。本プログラム実施以前に比べ、京都大学の名は格段に多くの北京大學生の目に触れ、認識されることになる。さらに参加者は SNS(ソーシャルネットワーキングシステム)を通じて、プログラムでの体験を世界に発信している。(3) 終了時アンケート調査では、プログラム参加者の約三分の二の学生が、日本への留学を考え始めていることが示された(「質の保証」を目指す短期学生受入れプログラムのために—先行事例の検討に基づいて—『京都大学国際交流センター論攷』5 号 2015.2 月より抄出)。</p> |